

KAWAMURA

No. 27

黄雀



川村中学校・高等学校

総合的な学習の時間

イングリッシュ・キャンプ

川村幼稚園

蓼科修養会

川村小学校

鶴友会クラブ活動

川村学園女子大学附属保育園

太陽だいすき 川村つ子！

川村学園女子大学

アクティブラーニングで歴史を体験

教育学部児童教育学科

多彩な先生方



学校法人 川村学園

1年生

学校出発
Tateshina



1日目



富岡製糸場

製糸場設立により女性が最先端の技術を身につけ、家庭の外へ出て、生きていく道が開けたことを知りました。



国営アルプスあづみの公園

安曇野の自然、生き物の営みを映像で観覧しました。
午後の写生会では、田園風景やアルプスの山岳風景を楽しみながら、自然の偉大さや植物を見て感じたことを絵に込めて描き上げました。

2日目



3日目



長門牧場 バター作り体験

乳牛のライフサイクルのお話を聞き、私たちが命をいただいていることを学びました。



4日目

探究的な活動を取り入れた学び 総合的な学習の時間



発表

3日間学んだことをグループでまとめ、エントランスホールにて発表をしました。鶴友祭にむけて、完成度を高めています。



学校到着
Kawamura

6

生徒たちはやがて社会に出て、自分の力で世の中を生き抜かなければならなくなります。感受性が豊かなこの時期に、様々な経験や学習が感性を育て、自己実現のために自分を見つめ、高めようとする力となります。川村学園では、時にはリーダーとして、時にはフォロワーとして、最適な行動がとれる女性の育成を目指します。

①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④発表という一連の過程に、校外学習での体験という要素が加わりります。実際、宿泊先や移動中の車内でも、生徒同士の活発な意見交換があり、自分の考えがまとまる、友人や他者の意見にも耳を傾け、再度考察する姿が見受けられます。これは、総合的な学習の時間に伴い、学年が上がるにつれて、より幅広い視野に立った事前学習が進められます。本校の総合的な学習の時間は、実践していることです。このサイクルを繰り返し行うことで、主体的に課題を発見し、その課題を解決する思考力や判断力、多様な人と協働して学ぶ力、自らの課題に最後まで取り組む力が自然と身についていきます。

本校では、その力の育成を図るべく、「総合的な学習の時間」において、各学年がテーマを持ち、校外でバラエティに富んだ活動を行います。1年生は、長野県北佐久郡立科町にある学園の蓼科山荘を拠点として、自然環境問題への認識を新たにします。今年は、9月5日から3泊4日の日程で、国営アルプスあづみの公園や長門牧場、立岩和紙の里などを訪れ、自然界の摂理や偉大さを感じ、そしてそこに関わる人々の営みについて学びました。

各教科で得た知識や、段階を経て培われた情報収集、及び活用能力の向上に伴い、学年が上がるにつれて、より幅広い視野に立った事前学習が進められます。本校の総合的な学習の時間は、実践していることです。このサイクルを繰り返し行うことで、主体的に課題を発見し、その課題を解決する思考力や判断力、多様な人と協働して学ぶ力、自らの課題に最後まで取り組む力が自然と身についていきます。

焼き物体験

体育館で蓼科の土を使って、焼き物体験。マグカップやお皿などを作りました。



AI(人工知能)を中心とするICTの進化に伴い、近い未来、AIに人間の仕事が奪われるのではないかという話題が様々な形で報道されています。AIが、データや数字を分析する能力に長けている一方、私たち人間は、感性を認めたうえで、様々な意見を受容し、調整を図りながら行動します。さらに、人は自分の経験から未来を創造し、社会や人生をよりよくするために何をすべきかを考え出すことができます。未だ創り手である子どもたちには、よりよい社会を創るという目標のもと、社会と連携・協働しながら、必要な資質・能力を育むことが求められています。

02

イングリッシュキャンプ

～パスポートのいらない英国留学～

1st day

12:25 Arrive at British Hills

Store your luggage
Check-in, Orientation, Guide to dining & Manor House tour in English



15:00 Transfer to rooms

16:00-17:30 Lesson 1

Survival English



ブリティッシュヒルズ研修中によく使う英語表現をアクティブにゲーム感覚で学びます。

Dinner



緊張もほぐれ夕食をおいしくいただきました。

Free time

TUCK SHOP 19:00-20:00
Energize me (challenge) 19:15-20:40
pub, gym-22:00, house lounge-23:00

2nd day

Breakfast

9:00-10:30 Lesson 2

English Language in Films



生卵を入れる容器の材料を先生から購入します。

11:00-12:30 Lesson 3

Science Challenge



lunch

14:00-15:30 Lesson 4

Fun With Directions



コミュニケーションボードゲームを楽しみました。

16:00-17:30 Lesson 5

Describing Things

Table Manners in English



カトラリーのセッティングや使い方、エチケットなどマナーを学び、コースディナーで実践しました。

Course dinner (refectory)



Free time

Rehearsal for Speech
pub, gym-22:00, house lounge-23:00

ループが成功させました。

3日目の「Speech Skills」では、発表するときの立ち方から表情、そして抑揚のつけ方まで細かく指導をいたしました。アドバイスを活かしてだきました。アドバイスを受けたりする中で、会話力を磨きました。

実際に落とさせて検証し、多くのグループが印象に残ったレッスンだったようです。

最初のレッスンは英語表現をゲーム感覚で学ぶ「Survival English」です。先生方のフレンドリーな雰囲気とジェスチャーを交えた指導で、生徒たちの緊張感も自然と和らいでいきました。終了後の生徒たちのアンケートでも、かなり印象に残ったレッスンだったようでした。

2日目の「Science Challenge」では、生卵を入れて高い所から落として表するときの立ち方から表情、そして抑揚のつけ方まで細かく指導をいたしました。アドバイスを活かしてだきました。アドバイスを受けたりする中で、会話力を磨きました。実際に落とさせて検証し、多くのグループが印象に残ったレッスンだったようでした。

生徒が一番印象に残った「Cooking Scones」では、英国の伝統菓子スコーンを作り、楽しい時間を過ごしました。また、毎回の食事は、料理や片付けなどの説明を聞き、食事を楽しみながら、英国の寄宿舎にいるかのような体験をすることができました。

滞在中、休憩時間にはショッピングで買い物やティールームでのひと時を楽しみました。どの場面も英語で話すことが求められるので、自分で調べたり、友人同士で助け合いながら、コミュニケーションを図りました。初めて見掛けられた英國の寄宿舎にいるかのような体験をすることができました。

たちは行程が終了する頃には、積極的に話しかけ、談笑する姿があちらこちらで見掛けられました。今回のイングリッシュキャンプは満足度も非常に高く、特に4技能のうち「Speaking Skills」と「Listening Skills」に力がついたと生徒たち自身も実感していました。自分の意見や希望をどう伝えるかを考え、うまく表現できない苦労と活かされると思われます。

3rd day

Breakfast

Check out before 8:50

9:00-10:30 Lesson 6

Speech Skills



11:00-12:30 Lesson 7

Cooking Scones



できあがったスコーンは、お土産に持ち帰りました。

12:30-12:45

Closing Ceremony with Certificates
in assigned classroom



先生から1人ひとりに修了証が手渡されました。

lunch

15:45 leave British Hills



毎年の英語語学研修にくわえ、今年から新たに、福島県にあるブリティッシュヒルズで2泊3日の研修プログラム、「イングリッシュキャンプ」がスマートリッジでアクティブラーニング型レッスンを受けることができます。

黄鶴 No.27

04

夏休みに入つてすぐに、年長組は2泊3日の蓼科修養会に出かけます。みんなでバスに乗つて出発しますが、長時間のバス移動では、歌をうたつたり、先生やガイドさんの出したクイズに答えたりしながら過ごします。朝は不安な子もいましたが、友だちと一緒に過ごすうちに、だんだんと笑顔になつてきました。

山荘に到着後、昼食を食べてから、白樺湖ファミリーランドへ行きました。森林鉄道に乗つたり、ターザンロープや長いすべり台、タイヤのブランコなどのアスレチックに挑戦です。汗と泥で真っ黒になりながら、所狭しと動き回りました。

山荘では汚れを落とすため、お風呂の準備です。このみんなで一緒に入るお風呂が、蓼科での楽しみの一つです。大きなお風呂に友だちと入ることはなかなかないことなので、嬉しそうに話しながら湯舟に浸かっていました。幼稚園ではできないたくさんの経験ができるのも蓼科ならではです。

夜暗くなると、外に出て花火を觀ます。打ち上げ花火がいっぱい、大いに盛り上りました。そして敷地内の水辺にホタルを見にいきます。鮮やかに光りながら、蓼科だからこそ見ることができるふわふわと飛ぶホタルに、子どもたちの顔が輝く瞬間です。

2日目は、朝から予定がたくさんであります。午前中は、女神湖の散策に出かけました。たくさんの木々や、草花に囲まれて歩く湖畔の木道は、蓼科の自然に触れるとても爽やかなひとときです。今年はカモの赤ちゃんが生まれたばかりということで、かわいい親子が泳いでいました。

午後は、蓼科テディベア美術館へ向かいます。ここではグループに分かれて、館内に隠されているくまを探すゲームに取り組みました。グループの友だちと、次々にくまを発見していきます。ぬいぐるみがたくさんある広場の中で遊んだ後は、お土産を買いに商店へと急ぎます。お店の中を歩き回つて、自分でほしいものを見つけます。また、家で待っている兄弟やお母様にお土産を選ぶ子もいますが、限られた金額のため思うように買えず、店内を何回も回っています。

山荘に戻ると、お楽しみ会が待っています。「くじ引き」、「あめつかみ」「クイズ」「スーパーぼーるすくい」の4つのゲームに参加しました。子どもたちもいますが、限られた金額のため思うように買えず、店内を何回も回っていました。

あつという間に2日目の夜が過ぎ、東京に帰る朝となりました。みんなはいろいろな経験をし、友だちと協力して生活することで、たくさんのこととを学び、大きく成長したことと思いました。



蓼科修養会

自然の中で笑顔あふれる2泊3日





バトン隊

鶴友祭などの発表会にむけて技をみがきます。



水泳

練習後の自由時間も楽しみの一つです。



書道

一文字ずつ丁寧に書きます。



剣道

力強くうち込むようになりました。



プラスバンド隊

様々なジャンルの楽曲に挑戦しています。



フラダンス

カラフルなパウスカートを身につけて踊ります。



陶芸

電動ろくろを使ったり、釉薬をつけたりします。



家庭科



生地から具材がでてこないように包みます。

多くの体験を 学童期に楽しむ

平成26年度から、コラス隊が合唱隊として、中高の鶴友会クラブと練習をともに、NHK全国学校音楽コンクールや、カテドラル関口教会のクリスマスコンサートに参加してきました。中高生との活動をとおして、より有意義な練習時間や関わりを持ち始めたことを契機に、もつと学園生活を充実してほしいと、中高鶴友会活動と連携することができるように検討し、徐々にその枠を広げるよう努めてまいりました。その結果、今年は、以下に挙げる8つの活動が開始されています。

鶴友会クラブ活動

意欲的な参加を期待し、実施している活動です。学校では奉仕活動として、外部団体からの依頼を受けた鼓笛隊に端を発していました。1979年（昭和54年）、4年生以上の時間割に組み込まれ、鼓笛隊、バトン隊、コーラス隊、器楽隊のいずれかに所属するという時代もありました。

太陽だいすき 川村っ子！

～ちびっ子たちの水遊び～

川村学園女子大学附属保育園の夏は、プール開きから始まります。毎年7月初旬にプール開きをするものの、梅雨明けまで天候不順が続き、なかなか水遊びができないのですが、今年は、例年より3週間も早い梅雨明けとなつたため、7月2日のプール開き初日からたっぷりと水に親しむことができました。

プール開きの日は、全園児が遊戯室に集まってプールに行く「体操をする」など水遊びを楽しみにしていました。また、準備体操も意欲満々で、大好きな『エビカニクス』の曲に合わせて笑顔で踊る子どもたちでした。



2歳児は、昨年水を怖がっていた子どもたちでしたが、今年は水・プール遊びが大好きになり、水遊び用衣服への着替えも自分たちで頑張っています。プール遊びと一緒に『川むらの森』と呼ばれているグランド横にある通称『ジャブジャブ池』での水遊びも楽しんでいます。ホースから出てくるシャワーやジェット水流を浴びながら、池にたまつた水をすくい上げては、全身に浴び大はしゃぎ、水遊びの醍醐味を体験です。その笑顔は夏のお日様に負けないくらいキラキラしていました。

1歳児は、プールバッグを持つことが嬉しい、プール遊びをとても楽しみにしていましたが、水が張られたビニールプールやホースから出る水を見るとならしい表情になり泣き出す子もいました。回数を重ねるごとに水にも慣れ、ビニールプールに肩まで入ったり、プール用おもちゃで遊んだりして笑顔で



の日も、やる気満々で取り組み、これから始まる水遊び活動への期待と感謝の気持ちを膨らませていましたし、毎回のプール遊び終了時にも進んで掃除を手伝つてくれる姿がありました。



5歳児は毎年、プール開きの数日前に幼児用の大きなプールを掃除することが恒例になっています。雑巾片手にゴシゴシとプールをピカピカにしながらできる水遊びは、年長としての役割であり、自分たちが大きくなつたことを感じられる活動です。今年も、やる気満々で取り組み、これから始まる水遊び活動への期待と感謝の気持ちを膨らませていましたし、毎回のプール遊び終了時にも進んで掃除を手伝つてくれる姿がありました。



4歳児は、昨年度から大きなプールを経験していますので、帰りの会で翌日がプールだとわかると大喜びです。



0歳児は、保育園に入園し、初めての水遊びとなりました。暑い日が続き少し動いただけでも汗ばみましたが、始めは汗を流すことの心地良さや水の感触を感じられるよう、温かいシャワーで沐浴をしました。小さなビニールプールに少量のぬるま湯を張り、水に浮く魚やヨーヨーなど水遊び用の玩具を用意すると子どもたちは興味を持ち、積極的に手を伸ばしていました。しかし、いざビニールプールの中に入るとなつて、不安からか泣いてしまう子が多く、足だけ水で濡らしてみたり、保育者が抱いて一緒にプールに入つたりと、安心して参加できるよう工夫をしました。



0歳児から就学前までの幅広い年齢層の子が生活する保育園では、ひと言で「水遊び」と言つても、水との関わり方は様々ですが、どの年齢の子もたくさん水に触れ満喫できました。毎年8月31日は、活動の締めくくりとして、年長児が思い出いっぱいのプールに感謝を込めて大掃除をします。そんな年長児の姿に憧れ、追いつきたいと願う年中児たちが、来年はきっと張り切つてプール掃除に取り組んでくれることでしょう。こうして、川村っ子の楽しい水遊びは繰り返されるのです。



3歳児は昨年までは乳児用のビニールプールだったため、今年から初めて大きなプールとなり、水着に着替えの本格的なプール遊びの始まりでした。水着を着ることがとても嬉しくて着替えも入水前のおかげで水と仲良しになれた3歳児クラスの子どもたちです。



はじめは水を嫌がる子もいましたが、友だちと一緒に心強いようで、水がかかっても思い切り体を動かして遊んでいます。口ケツのようにプールの壁を蹴り大きな水しぶきを上げることがお気に入りで、プールが始まった当初よりもだんだんと水位も増え、遊び方もダイナミックになりました。



国立科学博物館にて。
史学科の学生はやはり文字への関心が強いようです。



広島・鞆の浦にて。歴史ある港町を散策。



1年生のオリエンテーション。見学を通して友人関係が広がります。



東京国立博物館にて。
女性埴輪の服装に関心を持つ学生が多くいました。

史学科での学びの特徴は、フィールドワークの多さにあります。講義や書物から歴史を学ぶだけでなく、学外探訪、歌舞伎やオペラ鑑賞など、学外に出で「ホンモノの歴史」に触れる機会を多く設けています。

歴史学では、何よりも文献史料の読み込みが求められるため、史学科での学びはどうしても机で本に向き合う時間が長くなりがちです。しかし、史料に書かれた断片的な情報を深く理解するためには、その情景を具体的にイメージすることが必要不可欠です。当時の人々の衣装や持ち物、道具・武器の使い方、食べ物や食事の作法、乗り物の使い分けや、住居・街路の様子、周囲の地形や交通ルートなど、様々なことがらを理解し、視覚的にイメージできなければいけません。そこで史学科では、多様なフィールドワークを通じて、学生が豊富なイメージを抱けるようにしています。

また、多彩な切り口から歴史を考える上でも、フィールドワークが有效地に機能します。モノや地形の観察から抱いた素朴な疑問をもとに文献を読みなおし、新たな発見をする学生も少なくありません。



4年生のゼミ旅行は、仲間たちとの楽しい思い出。



歌舞伎鑑賞教室。ダイナミックな舞台転換が人気でした。

▼博物館・美術館の見学

授業ごとに、学習内容に関連した展示を見に行きます。最近では東京

国立博物館の「アラビアの道」展、書道博物館の「あの人、こんな字!」展、国立科学博物館の「古代アンドニス文明展」、サントリーニ美術館の「絵巻マニア列伝」展などを見学しました。学生たちは道具や衣装、絵画などから当時の情景を思い浮かべます。

▼オペラ・能・歌舞伎・文楽

1年生のオリエンテーションでは関東の史跡巡りを行います。2、3年生は、授業の中で中華街やモスクなどを訪れます。4年生は、卒業論文に関する史跡を回るゼミ旅行を自分たちで企画します。現地を歩いて地形や距離感がつかめれば、史料イメージする手掛かりになります。

▼史跡や街並みの探訪

自分の目や耳を通して、あるいは歩きまわって感じ取った情報を注意深く分析し、過去を生きた人々のくらしを、私たちとは異なる社会のあり方を思い描き、理解しようとすると、体験は、現代や未来への洞察力を育み、柔軟にものごとを考える上で、必ず役に立つはずです。

国立歴史民俗博物館にて。授業で学んだ羅城門の模型がありました。



京都・大極殿跡地にて。この場所はかつて政治の中心でした。



奈良・平城京跡にて。ここには役所の建物がありました。

史学科のフィールドワーク

アクティブラリーストア





教育学部児童教育学科の 多彩な先生方

先生方をご紹介します



湖北地区公民館(コホミン)での学習支援

を一つひとつぶしていくことが重要です。では、学級指導の場面を開します。」と言つて次のような場面で担任としてどのように振舞うか問います。

「明日までに用意してください。いいですか。よく聞いてください。鉛筆入れの中に、HBの鉛筆を5本と赤鉛筆を1本、消しゴムを1個、15センチの定規を1本入れて持つてきてください。」と言うと、問題児と言われている子どもから質問がありました。

「先生、赤色ボールペンでもいいですか。」と。

この時、「皆さんが担任だったらどうしますか。」と発問します。学生たちは様々な意見を出しますが、多くの学生は赤色ボールペンを許してしまいます。意見が出つくした所で、

川島が担任だったら次のように言います。「もう一度言います。鉛筆入れの中に、HBの鉛筆を5本と赤鉛筆を1本、消しゴムを1個、15センチの定規を1本入れて持つてきてください。」と言つたとたんに、学生たちは納得した顔で歓声を上げます。さらに、「私は「担任になつたら、徹底して、三日間、小さな風船をつぶしてください。」と話を続けます。

この話は、ほんの一例ですが、クラス30人の児童を瞬時に見る方法、板書する時のチョークの動かし方、授業で話す声の音の高さ、発問の仕方、叱るときと褒めるときの法則、指示するときの話し方、授業中の先生の立つ位置、指さしの法則、座席の決め方の法則など小学校の先生として教壇に立つた時すぐに役立つ技術を学生は学んでいきます。そして、教師として重要な資質の一つである感性を磨くことも学生に要求していきます。勿論、特別活動の理論も学習します。

さらに、学生がキャンパスを飛び出し、特別活動の指導法等で学んだ技術を生かす場として、我孫子市内の小学校での学習支援や湖北地区公民館での土曜寺子屋の学習支援、知的障害者施設尚恵学園での児童・児童対象とした療育支援のボランティア活動の場を提供しています。

そこでは、学生たちは小さな風船を一つひとつぶしながら、児童た

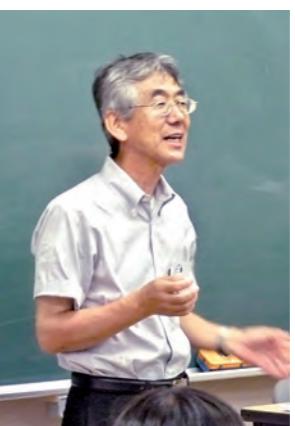


先輩の先生(児童教育学科卒)の授業を見て、指導技術を学んでいます。



知的障害者施設尚恵学園での療育支援 我孫子市立我孫子第二小学校での学習支援

『しなやかな
学級経営をめざして』



特任教授 川島 益雄

私が担当している科目の一つに、特別活動の指導法があります。第1回目の講義に、いきなり「小学校生活で心に残っている出来事を話してください」と発問すると、学生のほとんどが特別活動での出来事を話します。これほど学生たちの心をゆさぶる特別活動ですが、小学校現場では特別活動は特別やらなくてもよい授業などと思われているようで、教科指導に比べると軽視されがちです。しかし、学級経営上、重要な役割を担っているのが特別活動です。

この事実を理解していただくために、黄金の三日間の話をします。「クラス担任になつたとき、初めの三日間だけはどんな問題児でも先生の話を聞くのです。そして、児童は先生を試します。そのため、小さな風船と接している姿を教室やホールの片隅で見ていると、うれしくて涙を流してしまう私がいます。

学生たちが、近い将来、教師となって、特別活動を中心とした、しなやかな学級経営を実践している姿をいつもいつも夢見ていています。



我孫子市近隣センターにてボランティア



教職教養演習担当
京坂 和憲 先生



書写担当
田畠 理恵 先生



教職図画工作・図画工作科指導法担当
木村 早苗 先生



社会・社会科教育法担当
岡田 了祐 先生



生活・生活科教育法担当
森田 和良 先生

川村学園女子大学教育学部児童教育学科には、専任教員の他に、教科内容の学習やその指導方法を教えてくださっている非常勤の先生方がいらっしゃいます。生活と生活科教育法担当の森田和良先生、社会と社会科教育法担当の岡田了祐先生、図画工作科指導法担当の木村早苗先生、書写担当の田畠理恵先生、教職教養演習担当の京坂和憲先生です。先生方は、それぞれのご専門分野の造詣に深いだけでなく、小学校や特別支援学校などの教職の経験をお持ちの方、新進気鋭の教科教育法研究者などです。このような多彩な先生方のご指導の下、学生は小学校教員をめざして、日々学習に励んでいます。

卒業感謝記念品 ～後輩へエールを込めて～



川村学園は今年で創立94年を迎え、卒業生は約4万名となりました。毎年、卒業生たちは学び舎で過ごした日々や友人、先生方との様々な思い出を胸に、次のステップへと旅立っていきます。

卒業時には、今までの感謝と後輩へのエールを込め、卒業生から学校へ卒業感謝記念品が贈られ、大学目白キャンパスのイングリッシュガーデンなど、多くの記念品を頂戴しております。28年度卒業生からは、中高校舎1階ラウンジにデッキガーデンと美術部の生徒がデザインした優しいタッチのイラストが文字盤

を飾った時計をいただきました。木々の緑に囲まれて、在校生がゆったりとした時間を過ごす空間となっています。

29年度卒業生からは、中高校舎中庭に照明ライトが贈られました。中庭はクラブ活動や、体育祭の横断幕作成、鶴友祭（学園祭）ではアーチ制作などに使用しています。10月以降、17時を過ぎると中庭は暗くなり始めるため、鶴友祭の準備をする生徒たちは、手元が明るく照らされ作業効率があがると、とても喜んでおります。それぞれの記念品に込められた、卒業生たちの後輩たちへの思いをしっかりと受けとめ、日々の学校生活を送っています。

英語教育 ～オールラウンドの力を身につける～



2020年の大学入試では、従来の文法と読解力を重視する試験から、「読む・聞く・話す・書く」の4技能が問われます。創立者川村文子先生は、創立当初から英語を必須の教養と捉え、英語の時間を多く取り入れておりました。以来、工夫をこらした授業を行い語彙力、文法力、読解力を身につけ、自分の考えを明確に英語で述べることができます。がでける力を育成しています。また、実践的な英語力を鍛える場として英國語学研修や英語リッシュキャンプを実施しています。

更に今年度から音読トレーニングアプリを導入しました。生

徒が学習画面にアクセスをして、教科書本文を音読やシャドーイングなど、様々な形で練習します。自宅でも学習可能で録音したものは教員が添削します。お手本の音声や、自分の声を確認しながら取り組むため、英語になじみ、発音やスピーキングの向上につながります。日本においても、外国語の習得や国際感覚を身につけることは、益々重要になっていきます。英語力が定着するように、音読と同時に書くことも大切にしていきます。文化も思考も多種多様な人々に対し、相手を理解し、自分の意見を伝えられる英語力を身につけます。

